

シンポジウム記録

< テーマ > 通常の学校での特別支援教育の展開、それを支えるもの

< シンポジスト >

長谷川 清 氏 (新潟県柏崎市立日吉小学校 校長)

傳田 伸剛 氏 (長野市教育委員会学校教育課 指導主事)

阿部 正三 氏 (徳島県立国府養護学校 校長)

< 司会者 >

田中 良広 (国立特別支援教育総合研究所)

はじめに司会者の田中より、特別支援教育を通常の学校に確実に定着させていくためにはどうしたらよいか、通常の学校、特別支援学校、教育行政のそれぞれの立場から提言いただき考え合うという本シンポジウムの趣旨説明、及び各シンポジストの紹介があり、続いて各氏からの話題提供が行われた。

長谷川氏は通常の学校(小学校)の校長の立場から、「学習指導要領の改訂と日吉小学校における特別支援教育の推進」と題して、学校運営の中核に特別支援教育を据え、教育活動全体に特別支援教育を位置づけたこと、具体的な取り組みとして、学校内外の資源の活用、学習支援室の運営、校内研修等に触れ、日吉小学校のグランドデザインを示しながら、学校全体のユニバーサルデザイン化と、校長のリーダーシップの重要性に言及した(要項 p10-11 参照)。

傳田氏は、教育行政(市教育委員会)の立場から、「特別な支援を必要としている児童生徒への支援を実現するために - 特別支援教室(仮称)構想に関する研究を通して - 」と題して、長野市の小・中学校の現状、長野市の特別支援教育推進体制を紹介し、弾力的な支援を実現する体制、職員研修、学校の主体性、特別支援教育支援員の活用等について具体的に言及した(要項 p12-13 参照)。

阿部氏は特別支援学校の校長の立場から、「小・中学校での特別支援教育の定着を目指すセンター的機能」と題して、センター的機能を果たす上での特別支援学校の課題と、小・中学校の課題を整理し、特別支援学校自体の専門性の維持・向上にも寄与し、小・中学校との協働関係を構築するセンター的機能の在り方に言及した。さらに、独自の取り組みとして、「専門性マトリックスによる研究・研修システム」「個別の指導計画作成支援ツール」の活用の実際に触れた(要項 p14-15 参照)。

< 質疑・討議 >

校内体制を整備しても実際にはなかなか機能しない、といった状況に陥らないための方策を問われ、長谷川氏は、年度当初の職員会議で、特別支援教育を中核に位置づけ、職員一人一人が担当者であることを明確に打ち出しているとした。

国府養護学校の特徴的な取り組みに至った経緯について、阿部氏は、児童生徒や保護者との関わりの中で、自分たちの教育活動、児童生徒への指導・支援の一つ一つの意味を問われたとき、自分たち自身を見つめ直し振り返らざるを得なかったこと、いい意味での開

き直りが出発点となり、そこから専門性の向上に向けて動き出すことができたことに触れた。

市内の数校の取り組みにより得られた知見・成果を、他の学校等にどのように伝えているのかということに対して、傳田氏は市内で報告会を設定しているとした。

以上の他、会場の参加者からも特別支援教育の定着に関する取り組みについて紹介があった。